

令和6年度第1回鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議 会議録

日時:令和6年(2024年)7月31日(水) 10時~11時40分

場所:中央図書館 多目的室

議事次第のとおり、議事を進行。

議事次第1 各施設・学校等の子どもの読書環境について

(委員) 御成小学校、6年生の担任をしている。現在、御成小では毎週月曜日に朝読の時間をとり、月に2回程度保護者による読み聞かせの時間がある。1~3年生までは図書の時間があり、その時間に学校図書館専門員に読み聞かせをしてもらったりしている。4~6年生は、行事の多さもあり、中々授業で図書館に行く機会がないせいか、図書館が遠いように感じる。担任によっては図書館を利用しながらの調べ学習などやってくれることもあるが、職員の意識の差等もあって、子どもたちの図書館利用に差が出ているのが課題となっている。

図書委員の担当もしているので、図書委員の子ども達が、非来館者に向けて様々な取り組みを行っているのをみている。授業時間に学校図書館に行く機会がないと、全く図書館に行かない子どももいるので、その差を埋めていけるとよいと思っている。

質問:図書の時間とは?

回答:国語の時間を1時間図書にあてている。

(委員) 深沢中学校では、毎日登校後に10分間朝読書の時間がある。興味がある子は自分で持参した本を読んでいるが、本に興味がない子に向けて、図書委員が15冊程度、学級文庫を作っている。意識に差がある。

タブレットが全生徒に配付になった当初は、調べ学習などをタブレットだけで行っていたこともあったが、最近ではタブレットを学校図書館に持ち込んで調べ学習をすることも増えた。国語、社会、理科、家庭科なども行っている。映像や、まとめのプレゼンテーションなどを学校図書館で資料を広げながら作成している。学校図書館の机が大きく、資料を調べながらのまとめに向いているというのかもしれないが、学校図書館で調べ学習をすると、本を調べに行っているのをよく見かける。授業の場所を教室から学校図書館に変えただけで、タブレットだけでなく、本を見る生徒が増えるようになった。

図書委員会では、来る生徒が固定化されていることをうけて、新来館者を呼びこもうと、マンガを蔵書とするアンケートをとったり、貸出ランキングの高い本のポップを作成したり、図書館だよりに先生にインタビューしたものをのせたりと、本に興味を持つ取組を行っている。

(委員) 大学生と中学生の子どもがいる。保護者としての立場で話していきたい。深沢中学校では、図書館の開放ボランティアとして1学期に1回ぐらい担当している。部活と重なるので、最近の利用が少ないが、夏休みの部活動後に多くの部員が来館したり、テスト前ににぎわったりと利用に

波があるようだ。

もう子どもは卒業してしまったが、深沢小学校ではおはなし会のサークルにOBとして入っていて、月に1回ボランティアに行っている。OBは朝のおはなし会で読み聞かせに入るだけだが、今回この会議に出るにあたって、定例会に参加し、様子を聞いてきた。一時期コロナで、放送室から読み聞かせをしたり、人数が減ったり色々なことがあったが、今はまた教室で実施し、新しいメンバーも増えたと聞いている。『ヤクーバとライオン』（ティエリー・デデュー／作 柳田邦男／訳 講談社）を6年生に読んだときは、最初の騒がしさがうそのようにす〜と子どもたちが絵本の世界に入ってきたのがよくわかり、子ども達と一体の時間を楽しませてもらった。

（委員）6歳と1歳の子どもの保護者。幼稚園のPTAとして絵本に関わることが多く、バザーで大型絵本によるおはなし会を行った。図書館のおはなし会用品は日にちを指定して予約ができて、便利だった。夏休み中だが、図書館で友達に会うこともあり、図書館が地域の交流スペースになっていると感じる。おはなしコーナーでたまたま一緒になった子が、赤ちゃんに『はらぺこあおむし』（エリック・カール／さく もりひさし／やく 偕成社）を読んでくれたこともあり、本は人と人をつないだり、心の世界を豊かにするものだと強く感じている。

（委員）大学生の子にとっては、タブレットやPCのほうが身近な存在であり、書物を手に取って、という時間が減っているというのは強く感じる。私自身は文庫本派。

所管課としては、冒険遊び場・梶原、第六分庁舎「きらきら」などを所管しており、子ども向けの本をそこに置いている。冒険遊び場などは体を動かす子が多いが、静かに本を読んでいる子も見られる。こども家庭相談課と図書館とのブックスタートや、子育てメディアスポットでの情報提供など連携している。

（委員）小学生・中学生の頃はあまり本を読まなかったが、高校生・大学生の頃から小説・ノンフィクションをかなり読むようになった。

4月に開園した、腰越保育園では、玄関をあがると図書スペースがあり、どんなときに利用されているのかを聞いたところ、お迎えが来ても、盛り上がって中々帰れない気持ちの子どもと一緒に絵本を読むと、クールダウンして、落ち着かせることができる、という話を聞いた。読書は楽しいだけでなく、気持ちを落ち着かせる効果があるのだと実感した。

中々物価高で、家計において本にまわるお金も少なくなっているため、限られた予算だが、読書環境の整備にまわしていくことが課題だと考えている。

（委員）就学前の子どもたちの発達について内容に応じてセラピストが相談を受けたり、個別・グループのセッションを行っている。場所は福祉センターの1階の発達支援室。ソーシャルスキルトレーニングの教材として、絵本や紙芝居を活用するので、お隣の中央図書館に借りに行っている。バリアフリーという視点で、本への出会い方、近づき方は工夫され、世界的に進んでいることを、この

連絡会議を通じて学ばせてもらった。自分も仕事で出会う子どもに対し、本と子どもには、色々な出会い方があり、本のある場所に対する気持ちや、本を眺める、手に取った感覚など、それぞれあると気が付かされた。

(質問) さきほど深沢中学校の学校図書館開館の話があったが、学校によって違うのか？

(委員) 深沢中学校では保護者が入って開館しているが、鎌倉市で初めてと聞いている。

(事務局) 図書館が把握しているのは、深沢中学校だけ。

(委員) 放課後も学校図書館の本を借りたいという要望があり、保護者の協力を得て、3年前から放課後に学校図書館を開館している。保護者が入って図書館を開館するのは深沢中学校が初めてだった。3年前から実施しているが、去年から水曜日は部活動なしで下校する日となったため、利用者が減ってしまった。以前は、部活のない日がバラバラだったため、部活が休みの日に利用している子がいた。部活全入ではなくなったので、部活に入っていない子が数人利用している程度。今後、引退後の勉強場所や、部活後のクールダウンの場所などとしても一定の利用は見込んでいるが、せっかく開館しても図書館を利用するためにくる生徒はあまりいない。

(委員) 開館状況について課題はあるが、ボランティア保護者は充実した蔵書を借りられるという恩恵を受けている。

(委員) 新着図書は生徒優先にしているが、それ以外のは保護者への貸出しも行うようにした。

(事務局) 先ほど、放課後学校図書館を開館しているのは深沢中学校のみと言ってしまったが、他にもあるか？

(委員) 前に勤務していた中学校では、図書委員が放課後 20 分貸出業務を行っていたが、そのようにすると部活に支障がでるようだ。

(委員) 学校図書館という空間を自分たちで運営できることはいいことだ。

(委員) 学力テストの結果をみると、生活アンケートで読書をしている子のほうが学力が高い傾向がある。学校図書館の役割としては、探求学習がすすんでいるが、一人一台もっているタブレットと図書館資料との使い分けが大切になってくると思う。単語のみの検索になりがちなインターネットとは違い、単語から派生していたり、話題の広がり強い本など特徴をとらえて両方使っていけたらと思う。

学校図書館専門員や、読書活動推進員などの研修も年に2回行っており、今年の1回目は外部講師を招いて、「学校司書と学校図書館の役割」についての研修を行った。これからも学校と連携して学校司書の研修を充実させていきたい。

課題としては、新聞について。学校図書館に新聞を設置するのはどうか、新聞の必要性を広げてほしいと議会でも質問が出ている。全国的には新聞を取り入れている自治体が増えている。今後どうしていくか、検討中。

(委員) タブレットをどこで使うかによって使い方が異なるというのは面白い視点。新聞を置いている小学校・中学校はどれぐらいあるのか？

(委員) 深沢中学校は置いていない。

(委員) 新聞を取っている学校は、中学校は 0 校、小学校は3校だったかと。小学生新聞を置いてあるところがある。

(委員) 小学生新聞を、子どものころ読んでいたが、「忍たま乱太郎」の連載が楽しみだったことをよく覚えている。その後アニメ化し、ロングセラーの作品になった。

(委員) 上の子(現:大学生)が小学生のころには、新聞を読んできてくる授業があったが、下の子の時は聞いていない。購読している家庭も減っている。情報入手のきっかけに小学生新聞は適している。

(委員) タウンニュースなど地元の新聞も情報が地域に密着して興味深い。

2 鎌倉市子ども読書活動推進計画について

3 第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画の進捗について

(委員) 補足だが、今訪問サービスの長谷幼稚園の話があったが、月に1回絵本の会というのを長谷幼稚園で開催している。これは保護者同士が絵本について話す会だが、今回図書館に依頼し、図書館の話と、絵本の話をしてもらった。通常は、5~10名くらいの参加だが、当日20名くらいの参加があり、注目度が違い、大盛況だった。子どももどんどん来ていいんだよ、と図書館の人から聞いてとても喜んでいて。やはり静かにさせないといけない、と気兼ねする場所だという意見が多かった。また、図書館の人に来てもらうことで、顔が見える関係がよいな、と改めて思った。

(委員) ディスレクシアについて。身近にディスレクシアの子どもがいて、意外と多い。読みたくても読めない子どもが結構な人数いるように感じる。読みやすい本を見つけてあげる以外にどのようなことができるのか。

(事務局) 図書館自身もまだまだ手探りだが、マルチメディアデイズという、電子機械がある。また、ディスレクシアといっても症状は様々で、ルビがあったら読める子がいたり、リーディングトラックがあったら読める子がいたりする。LLブックというやさしく読める本が出ていたり、玉縄図書館では「りんごの棚」という大活字本、LLブック、点字付き絵本などを集めたコーナーを作った。そういうことで少しずつ図書に触れやすくなるとよいと思っているが、みなさんから、こんなことで困っているというのをぜひ話してほしい。

(委員) そういった特性は個別的なもので、個人差がある。最適な方法は一人一人違うので、1人の子に合っても、他の子には合わない場合など、さまざまである。そういった、個別性に気づく周囲の環境が大事。合理的配慮の1つとして、ひとりひとりがそのような考えを持つことが大切。ただ、図書館には「静かにできないために」連れていけないと言われることが多く、足を向けることそのものにバリアがある。「にぎやかな図書館をめざしている」と聞いているので、そのようにお知らせしているが、子ども達が自由なことを許容する流れ、ソフト面での対応が急がれる。

(委員) 答えは一つではないので、どういったことならできるかな、どういったことをしていけるかな、と少しずつ考えていくしかない。

(委員) 小学校のサークルにも参加していると先ほど話したが、やはり子どもたちの過ごしやすい空間とともに、絵本をそろえていくのがとても大切だと思う。絶版されて手に入らないものも古本屋で安く手に入ることもあるので、ぜひそろえてほしい。

(事務局) 古い本でも良い本はできるだけ除籍しないで、児童書であれば深沢の地下書庫で保存している。

(委員) 閉架資料として、検索でき、利用もできるので、助かる。

4 アンケートについて

5 その他

・情報交換

事務局から新庁舎整備について情報提供。

(事務局) 4月に新庁舎の基本設計者の公募をし、参加申請した4者の提案概要書を市役所ロビーや各支所、きらら鎌倉で7月8日から展示している。7月22日から意見聴取も開始。図書館としても関係課に意見を出す、但し、今回の連絡会議の際に子どもの読書に関わる部分について、委員の皆様からも追加や修正などのご意見をお願いしたい。

(委員) バザーでの読み聞かせの話先ほどしたが、子どもたちを連れて、おはなしコーナーで選書をしていると、やはり声が大きくなってしまったり、周りの方のご迷惑になっていないか気になったので、そのようなグループミーティングルームや、ラウンジスペースがあるとよいと思う。シリウスに他の委員と行ったが、ミーティングスペースもあり、声が響かない設計になっていて、とてもよかったと思う。にぎやかな図書館にしたいという気持ちも、静かな図書館で本を読みたいという気持ちもわかるので、なんとか両立できるようにしてほしい。

(事務局) 静かにしないと、という環境と、子どもが過ごしやすい環境とゾーニングが大切だと思っている。新市庁舎の中に深沢図書館が入るが、市役所の中に入ることで、委員が言ってくれたことが実現できるのは、現庁舎跡地にうつる中央図書館のほうで、なのかもしれない。何が必要なのか、様々なお子さんに何を提供できたらいいのか、機能として盛り込んでいけるのかがいいのか、検討していきたい。

今日はありがとうございました。

・次の開催について

11月15日、21日の候補日を提示したところ、21日は都合が悪い委員がいた。欠席している委員もいるため、改めて予定を確認し、別途連絡することとなった。